



在宅患者さんのその後について

多くの皆さんは、「在宅医療の対象の患者さんはさまざまな酸素療法や点滴治療などの医療処置を経て、「自宅」で最期まで過ごされていく」という

イメージをお持ちなので、イメージをお持ちなのではないでしょうか？

このイメージは、全部が全部、当てはまるわけではありません。例えば、私が往診した中に、このように方がいます。

その方は、重いがんを患っていて、部屋の中を少し歩くだけでもハアハアと息が上がります。大学病院でもかなり先行きが厳しいと予想されていました。先日もかなり先行きが厳

しいと予想されていました。先日もかなり先行きが厳しいと予想されていました。

松原 清二 医師
在宅療養支援診療所 まつばらホームクリニック 院長
総合内科専門医・循環器内科医
・日本循環器学会専門医
・日本内科学会認定医
・認知症サポート医

その診療所の先生とお話ししましたが、大変びっくりされていました。患者さんの病気には時相があります。平たく言えば、外来には行けない

【まつばらホームクリニック】
☎ 042-439-1250
 西東京市東町 4-14-18-2F
(訪問中のため不在が多い)
 ■電話対応 : 午前 9:00 ~ 午後 6:00
 ■定休日 : 土日 (祝日は診療)
 ■訪問地域 : 西東京市全域、東久留米・新座・練馬の一部

まつばらホームクリニック

私に往診依頼が来たの、状態」と「外来に行ける状態です。ですが、私が行ったのは、内服の調整とご自宅での酸素療法です。これと並行して、大学病院ではホルモン療法を行っていただき、外出が困難で通院できないうう方に対しては、ときに外来への架け橋として、訪問診療で助けできればと思っています。